

ナーム大阪 有志の会

イオン葬儀 勉強会議 (平成25年9月26日)

勉強会テーマ (担当 天王寺区 西山浄土宗 泰聖寺 浅野壮宏)

『故人と遺族に対して、我々僧侶として出来ること』

～葬儀社と寺院の連携について～

〈18時から普泉寺霊園やすらぎの里にて〉

《はじめに》

今までの勉強会では、御葬家様視点での学習（クレーム集）、個別事例検討、マーケットから見た寺院のあり方や必要性、顧客から見たニーズなどをテーマにして勉強会を実施してきましたが、今回は葬儀社の実情や思い、僧侶への要望などをテーマにします。

今回の勉強会ポイント

- ・ 葬儀社が葬儀を会式するまでの準備を知る。
- ・ 寺院が葬儀式事を厳修するまでの志を持つ。

① 某葬儀社の実情や思いを聞く。

【質問】

身内に御不幸があった場合、以前は菩提寺への連絡が一番であったと云うイメージがありますが、最近の葬儀式はどうでしょうか？

【返答】

ほとんど先に菩提寺への連絡は無く、ここ20年で寺院が主導する葬儀は減り、特に最近では家族葬が圧倒的に多くなりました。

勉強会の参考にと云う前定で、何社かの葬儀担当者に、
この質問を皮切りに、現代葬儀の実情や葬儀社の本音を聞いてみた。

《僧侶に対して困ったこと》

葬儀進行のなかで、同じ宗旨宗門でも寺院によって
道具準備の仕方や焼香のタイミングなどが違う。

読経の声が小さく、位牌の字が汚いこと。

関東では印字した戒名紙を白木位牌に貼る風習があるようだが、
伝統文化を重んじる職業であるので、字は丁寧に書いて頂きたい。
前の法事などで、通夜式にお酒を飲んでこられたとき。(問題外)

《寺院に対して理不尽に思ったこと》

御葬家が会館利用料などの葬儀費用を節約する中で、
菩提寺に倍額以上の御布施を支払っていたときに、
御葬家とコミュニケーションがとれているのか心配。

葬儀社は御葬家の困らない範囲で葬儀をするが、
寺院は寺院の指値で御布施がきまることが不思議に思う。

《僧侶・寺院に期待すること》

最近葬儀を出す喪主様に寺と関わりをもってきてない世代が多く、
口を揃えて言うのは、簡略化と低金額である。

インターネットの普及により、情報を得ているが、
やはり宗教に対しては溝があるようである。

葬儀式に関しても、その溝を埋める努力をしてほしい。

事務的に淡々と作法としての葬儀をこなすのではなく、
法話にしても、気持ちが入っている方は素晴らしい法話をされるが、
残念ながら、そういう法話にあまり出会う機会がない。

御坊様として見られていることを感じて頂きたい。

いわゆる御寺らしい風格があり、

見るだけでも有難い僧侶になって欲しい。

法衣捌きなど身のこなしも勉強して頂きたい。

《葬儀社冥利を感じたこと》

葬儀の打ち合わせの際は心を閉ざしている印象を受けたが、
初七日が終わり、御葬家が帰られる際に
心から「ありがとう」と労いの言葉を頂いたとき。

② 葬儀社からの意見と提言についてまとめる。

《今回感じたこと》

葬儀社の斎場手配や遺族の希望の兼ね合いなどの調整は大変である。

⇒ 葬儀会式まで相当な準備をしていることを認識する。

葬儀社スタッフも一人の人間として、葬儀式に熱い思いをもっている。

⇒ その熱い思いを、この勉強会で伝えて頂くことも必要である。

僧侶が供養に向かう姿勢への温度差を感じていること。

⇒ 涅槃作法や臨終行儀を考え直す。

作法にこだわり、作業っぽくなっていること。

⇒ 人の死に対して、なれてしまてはいけない。

葬儀社スタッフも良い僧侶には感動すること。

⇒ 一所懸命読経し、人の心を動かすような葬儀になるよう努力する。

《これからの提言》

- ・ 葬儀社も良い葬儀を挙げたいと想っている同志であること。
- ・ 喪主様が寺と関わりを持っていなかった世代が多くなり、情報の収集元を我々も閲覧し、対応策（ニーズ）を練るべきである。
- ・ 葬儀社との連携の際にも、できるだけ遺族に関する情報を得て、故人や遺族に対して何ができるかをイメージ（訓練）するべきである。
- ・ 法話はできるだけ行い、どうすれば遺族の悲しみ（ストレス）を減らすこと、取り除くことができる会話かを考えるべきである。
- ・ 遺族に感情移入（当事者意識）を持ち、葬儀にこれまで以上の志をもって挑むべきである。
その為には遺族との葬儀前の会話の中で、しっかり傾聴し、葬儀挨拶状などを読んで、気持ちを汲み取るべきである。

③ 提携葬儀社はイオン独自の研修を受けて、サービス提供している。

質の高い葬儀をする為、僧侶側も勉強会や研修会が当然必要である。

④ ナーム報告書についてのお願い。

葬儀完了報告書には、
戒名法名の説明と四十九日の依頼相談について記入する欄があるが、
今後の供養について心配ごとがないか、などを遺族に聴きながら
遺族に分かりやすく説明することが求められている。
単に、はい・いいえ、だけで応えていくものではない。

※ 別案件【イオンの永代供養納骨について】

イオンリテール（本社・千葉県千葉市）で葬祭事業を展開する
イオンライフ事業部は9月1日以降、3万5000円からの低料金で納骨・永代供養を行う
新サービスの提供を全国10カ所の寺院や霊園で順次、開始する。
イオンライフ事業部は2009年から全国約490社の葬儀社と提携した
低価格の葬儀サービス「イオンのお葬式」を展開している。
透明性の高い料金体系で好評だが、
「お布施や納骨には多額のお金がかかってしまう」、
「墓のことで子どもや孫に負担をかけたくない」といった意見、問い合わせも多かった。
新サービスでは宗旨・宗派を問わず納骨・永代供養ができる合祀墓を、
埋葬料、永代使用料、永代供養料、永代管理料などを含めて
3万5000円からの低料金で紹介する。
「イオンのお葬式」を利用する場合は3万円から。
9月1日に東京都港区の徳純院で開始し、順次、
神奈川県横浜市の寶袋寺など、名古屋、大阪を含む全国10カ所の寺院、霊園に広げる。
納骨のみ、また葬儀とのセットでも生前の予約が可能だ。
これまで同社は、葬儀の顧客には墓の販売や納骨を仲介してきたが、
最低でも約50万円以上の費用がかかっていた。
同社の調査によると、簡素な納骨を望む人が近年増加傾向にある。
家族の葬式をしたが、料金がネックとなって納骨できず、
自宅などで保管したままの人も目立つという。

(例)現状、大阪における永代納骨供養の場合

なごみ霊園5万円から、一心寺11万円から、四天王寺13万円からなどがある。